

主要産地における令和3年産水稻の生育状況等について 第9報 (7月26日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和3年7月26日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
	育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	平年に対する遅速等		
北海道	<p>【生育状況(7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政部 7月21日付) (空知) 生育はやや早く進んでいる。(空知総合振興局 7月21日付) (石狩) 生育はやや進んでいる。(石狩振興局 7月21日付) (後志) 遅速は±0日。(後志総合振興局 7月21日付) (胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月21日付) (日高) 生育は平年並である。(日高総合振興局 7月21日付) (渡島) 気温が高く経過しており、生育はやや早まっている。(渡島総合振興局 7月21日付) (檜山) 生育は平年よりやや早い。(檜山振興局 7月21日付) (上川) 生育は平年並。(上川総合振興局 7月21日付) (留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月21日付) (オホーツク) 生育は平年並である。(オホーツク総合振興局 7月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は日本海側で少なく、オホーツク側で平年並か少なく、太平洋側で、ほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側で多く、オホーツク側で平年並か多く、太平洋側で、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北海道地方)】 7月28日頃から、かなりの高温。 (気象庁札幌管区気象台 7月22日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高く、降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 3月23日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	<p>【7月15日現在】</p> <p>・生育は平年より早まっている</p> <p>(県生育観測所の生育状況)</p> <p>・平年と比較して、草丈は「つがるロマン」、「まっしぐら」とも長く、m当たり茎数は「つがるロマン」がやや多く、「まっしぐら」が少なくなっている。幼穂形成期は、平年と比較して、「つがるロマン」が7月9日で5日早く、「まっしぐら」が7月8日で4日早くなっている。</p> <p>(生育) 7月15日以降の気温が平年並に推移した場合、出穂期は「つがるロマン」が7月31日～8月5日頃、「まっしぐら」が7月30日～8月15日頃と予想される。 (青森県 7月20日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は日本海側で平年並か少なく、太平洋側で平年並が多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か多く、太平洋側で、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】 7月28日頃から、かなりの高温。 (気象庁仙台管区気象台 7月22日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高く、降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり令和3年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	<p>【7月20日現在】</p> <p>・県内の水稻は現在、減数分裂期を迎えている。</p> <p>(生育) 当面の気温は平年並みか高めに推移する予報であり、今後、日平均気温が平年並に経過した場合、出穂期は平年(過去5か年の平均)に比べ、遅速全体で3日程度早く、品種や地域によっては7月中旬に出穂する圃場もあると予想される。 (岩手県 7月20日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「鉄河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	<p>【7月20日現在】</p> <p>(古川農業試験場「ひとめぼれ」)</p> <p>・草丈は80.7cm(平年比117%)、1m当たりの茎数は582.8本(平年比105%)、葉数は11.8枚(平年差0.6枚)となっている。 幼穂長は77.3mm(平年差46.7mm)となっており、生育は進んでいる。また、北部平坦地帯では、7月15日頃に減数分裂期に達したと思われる、出穂期は平年(8月3日)より早まる見込み。(宮城県 7月21日付)</p> <p>(大河原) 梅雨明け以降好天が続く、稲の生育が進んでいるため、出穂期は平年よりも2～4日程度早まる見込み。 (南部平坦地帯7月28日頃の見込み) (大河原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(仙台) 出穂期が早まる見込み。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月26日付)</p> <p>(美里) 好天で推移したことにより生育が進んでいる。管内の出穂期は7月30日と予想。 (宮城県美里農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(栗原) 「ひとめぼれ」では、草丈は平年並～やや長、茎数は平年並～やや少なく、葉数は少なく推移している。 (出穂期) 北部平坦地帯・中生品種は7月30日頃の見込み。(平年並8月3日) (宮城県栗原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(石巻) (生育調査ほの生育状況) 草丈は平年と比べ長くなっている。茎数は「ひとめぼれ」では平年並～やや少なく、「ササニシキ」では平年並となっている。管内の出穂期は7月30日～8月1日頃の見込み。 (宮城県石巻農業改良普及センター 7月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、収量水準の高い「あきたこまち」が増加傾向にある。</p>
秋田	<p>(平鹿) (7月15日現在) 草丈66.6cm(平年比105%)、茎数558本/m²(同比106%)、葉数11.3葉(同差+0.4葉)。(7月16日付)</p> <p>(由利) (7月15日調査) 草丈は67.6cmで平年より長く(平年比111%)、m²あたり茎数は547本で平年よりやや多い(平年比102%)ほとんどの圃場で幼穂形成期に入っている。(7月16日付)</p> <p>(鹿角) (7月15日調査) 草丈は59.9cm(平年比98%)、茎数は605本/m²(平年比102%)、葉数は11.1葉(平年比11.0葉)。(7月16日付)</p> <p>(北秋田) (7月15日調査) 草丈67.1cm(平年比107%)、茎数556本/m²(同比96%)、葉数11.8葉(同差+0.6葉)。 出穂期の予測(7月15日以降、平年値で計算)では、5月15日移植は7月29日(平年8月4日)(同8月7日)(7月16日付)</p> <p>(秋田) (7月15日調査) 「あきたこまち」の生育は草丈が68.7cm(平年比107%)、茎数が492本/m²(平年比100%)、葉数が11.6葉(平年比+0.4葉)。(7月16日付)</p> <p>(山本) (7月15日調査) 草丈が68.4cm(平年比110%)、茎数が532本/m²(平年比100%)、葉数が11.86(平年+0.8)。(7月20日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p> <p>・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	<p>【7月20日現在】</p> <p>・「雪若丸」の生育は、指標値と比べ、草丈はやや長く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色は並。出穂期は、農業総合研究センター(山形市)で7月31日頃(平年8月2日)、水田農業研究所(鶴岡市)で7月28日頃(平年8月2日)と平年より早い見込み。(山形おいしき極める!米づくりプロジェクト本部 7月20日付)</p> <p>・平坦部「はえぬき」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数、葉数はやや多く、葉色はやや淡い状況。農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は平年より1～4日早いと予想。</p> <p>・「つや姫」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数、葉数はやや多く、葉色はやや淡い状況。出穂期は、農業総合研究センター(山形市)では8月4日頃(平年8月7日)、水田農業研究所(鶴岡市)では8月6日頃(平年8月9日)であり、平年より2～3日早い見込み。(山形おいしき極める!米づくりプロジェクト本部 7月20日付)</p> <p>(西置賜) (7月20日現在) 出穂は各品種とも平年より早まる見込み。(西置賜農業技術普及課 7月21日付)</p> <p>(西村山) (7月20日現在) 生育は旺盛で、高温により出穂は早まる見込み。(西村山農業技術普及課 7月21日付)</p> <p>(最上) (7月20日現在) 出穂期は平年並からやや早い見込み。(最上総合支庁農業技術普及課 7月26日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっており、新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	<p>【6月29日現在】</p> <p>(農業総合センターの作柄解析試験コシヒカリの生育調査)</p> <p>・主幹出葉からみた生育は、本部と浜地域では6日早く、会津では4日早くなっている。 (注) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域が会津坂下町、浜地域が相馬市。 (福島県 7月8日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 (同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(東北地方)】 (同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 (同上)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「天のつづみ」が増加傾向となっている。</p>
茨城	<p>【水戸】(7月9日現在 対平年遅速) (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月13日付) (4月30日移植) 「あきたこまち」1日早い、「コシヒカリ」1日早い、「ふくまるSL」1日早い。 ・幼穂長から予測される出穂期は「あきたこまち」で7月15日、「ふくまるSL」で7月16日、「コシヒカリ」で7月25日。 (5月10日移植) 「コシヒカリ」平年並。</p> <p>(生育) 【龍ヶ崎】(7月6日現在 対平年遅速) (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月12日付) (4月27日移植) 「あきたこまち」2日遅い、「ふくまるSL」1日早い、「コシヒカリ」1日遅い。 ・今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は「あきたこまち」で7月13日頃、「ふくまるSL」で7月14日頃、「コシヒカリ」で7月24日頃。 (5月7日移植) 「コシヒカリ」3日遅い。 ・今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は7月31日頃。</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東) (農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「あさひの夢」及び「ふくまる」が増加傾向となっている。</p>

	生育状況等		
栃 木	<p>【「コシヒカリ」「とちぎの星」 7月6日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の生育量はほぼ平年並。 前回の調査時では生育量が過剰気味であった場合は、平年並の生育量に近づいた。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業試験場(宇都宮市)のコシヒカリ(5月7日移植)の出穂期は7月27日頃の予測(平年の出穂期8月1日より5日早い)。(栃木県 7月12日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「なすひかり」及び「とちぎの星」が増加傾向にある。
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> ・7月上旬は日照時間が少なく、気温が低く推移したため、生育の進みはややブレキがかかった。 ・4月20日植えの出穂期は、「ふさおとめ」が7月9日から、「ふさこがね」が7月11日から迎えている。 ・「コシヒカリ」「粒すけ」ともに7月16日から出穂期を迎える。各品種ともに出穂期は平年並～やや遅くなっている。5月1日植える「コシヒカリ」は7月20日から、平年並～やや早く出穂期を迎えると予測される。(千葉県 7月14日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。
新 潟	<p>【7月20日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」の生育は、県全体では指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数、葉数の進み、葉色はいずれも「並」。 ・草丈、茎数と葉色の地域差、ほ場差が大きくなっている。 ・「新之助」の生育は、指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数、葉数の進み、葉色はいずれも「並」。 ・草丈、茎数、葉色の地域差、ほ場差が大きくなっている。(新潟県農林水産部 7月21日付) <p>【7月20日現在】</p> <p>(新発田) 出穂期は平年よりやや早まる見込み。(前年に比べ1～2日程度早い)(新発田農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(新 潟) 「コシヒカリ」草丈「やや長」茎数「並」葉数の進み「並」葉色「並」</p> <p>「新之助」草丈「やや長」茎数「少」葉数の進み「並」葉色「並」(新潟県農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(三 条) 生育は草丈がやや長く、茎数は並、葉数は並、葉色は並。出穂期は全品種で当初の予想より1日程度早まると思われる。(三条農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(長 岡) 草丈「並」、茎数「並」、葉数「やや早」。コシヒカリの出穂期は平年並(5月5～10日植えで、8月4日頃)と予想。(長岡農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(魚 沼) 「コシヒカリ」の出穂期は8月5日(5/20～5/25植え)と予想(魚沼農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(南魚沼) 「コシヒカリ」草丈：並、茎数：やや多、葉数：並(南魚沼農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(十日町) 「コシヒカリ」の生育は、草丈は「やや長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」。梅雨明け後の高温・多照により出穂期は平年に比べ2日程度早まる予想。(十日町農業普及指導センターほか 7月20日付)</p> <p>(柏 崎) コシヒカリの出穂は8月4日の見込み。(柏崎農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(上 越) 「コシヒカリ」草丈：やや長、茎数：並、葉数：並。(上越農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(糸魚川) 調査ほ場の平均は、草丈、茎数、葉数は並となっている。現時点での、平坦地の5月上旬日植える「コシヒカリ」の出穂期は、平年並8月5日頃と予想(糸魚川農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(佐 渡) 【7月19日現在】草丈：やや長、茎数：やや多、葉数：やや早。コシヒカリの出穂期は「平年並」と予想。(佐渡農業普及指導センター 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】7月30日頃から、かなりの高温。(気象庁新潟地方気象台 7月22日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「こしいふき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」、「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。
富 山	<p>【本田での生育状況】(7月19日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」平年に比べて、草丈はやや長く、茎数は並み、葉色は濃く、葉齢はやや遅れている。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より2日遅い8月4日頃と見込まれる。 ・「てんこもり」平年に比べて、草丈、茎数、葉色は並み、葉齢はやや遅んでいる。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より3日遅い8月7日頃と見込まれる。 ・「てんたかく」5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月17日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月22日頃と見込まれる。 ・「富富富」近年に比べて、草丈、茎数、葉色は並み、葉齢は遅れている。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より2日遅い8月6日頃と見込まれる。(富山県 7月19日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんこもり」及び「富富富」が増加傾向にある。
石 川	<p>【7月8日調査】【品種別地域別出穂期予想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめみづほ」加賀：7月16日～7月20日(平年に比べ1～2日程度早い)。能登：7月21日頃(近年より2日程度早い)。 ・「能登ひかり」能登：7月20日～24日(近年に比べ1日程度早い)。 ・「コシヒカリ」加賀：7月27日～7月31日(平年より3日程度早い～平年並)。能登：7月30日～8月4日(平年に比べ2～4日程度早い)。(石川県農林総合研究センター 7月9日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。
福 井	<p>【7月21日調査】(農業試験場の生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ハナエチゼン」(5月2日移植)：幼穂形成期 6月28日、出穂期 7月17日。 ・「コシヒカリ」(5月20日移植)：幼穂形成期 7月5日。 ・「あきさかり」(5月2日移植)：幼穂形成期 7月10日。(福井県ほか 7月21日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北陸地方)】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニカメイガ、いもち病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(北陸)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。
長 野	<p>【農業試験場八重森圃場(標高340m)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植後40日の生育は、いずれの品種(あきたこまち、コシヒカリ、風さやか)も主稈葉数がやや遅れ、草丈、茎数は平年並である。幼穂形成期は、「あきたこまち」で平年より1日、「コシヒカリ」で2日遅い。(長野県農業試験場 7月16日付) <p>【農業試験場原村試験地(標高1,017m)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植後50日の生育は、いずれの品種も主稈葉数は平年並み、草丈はやや遅れ、茎数は少ない傾向である。幼穂形成期は、平年より「きらりん」で5日遅く、「ゆめしなの」で2日遅かった。(長野県農業試験場 7月16日付) <p>【伊那米総合試験地(伊那市美薈)】(7月2日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那米試験地の田植え50日後の生育状況は、「コシヒカリ」で草丈は平年より短く(92%)、茎数は平年より多く(107%)となっている。酒米の茎数は平年並だが、他の品種は「コシヒカリ」と同様の傾向。(上伊那農業農村支援センター 7月2日付) <p>【安曇野市豊科 標高550m 5月15日植(雑穀)】「コシヒカリ」「あきたこまち」(7月7日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あきたこまち」は7月4日(平年より2日早)、「美山錦」は7月6日(平年より1日早)に幼穂形成期を迎えた。「コシヒカリ」も平年より1～2日程度早く幼穂形成期を迎えると予想される。(松本農業農村支援センター 7月9日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種として「風さやか」の導入を推奨している。
滋 賀	<p>【農業技術振興センター水稲作況調査(5月10日移植)】(みずかがみ、コシヒカリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、茎数は6月中旬までは平年より少なかったが、6月下旬以降は平年並に推移している。 ・幼穂形成期は、「みずかがみ」は7月1日、「コシヒカリ」は7月5日と、両品種とも平年より2日遅く、「みずかがみ」では、7月24日頃に(出穂期を迎える見込み)。 ・県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年並に幼穂形成期を迎えている。(滋賀県農業技術振興センター 7月9日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(近畿地方)】7月30日頃から、かなりの高温。(気象庁大阪管区気象台 7月22日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】近畿地方の向こう3か月の平均気温は高く、降水量は日本海側で、ほぼ平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トビロウカガの発生が「多い」と予想される。(近畿)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温登熟性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。

	生育状況等		
兵 庫	<p>【6月29日現在】</p> <p>(県北)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの葉齢の進展は平年より遅く、草丈はやや長く、莖数はかなり少ない。遅植えでは葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はかなり長く、莖数は多い。 <p>(生育)</p> <p>(県北以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。 <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(近畿地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トビイロウンカの発生が「多い」と予想される。(近畿) (農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。
岡 山	<p>【6月21、22日巡回調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極早生種の生育は概ね平年並である。 <p>(岡山県 6月30日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は、ほぼ平年並、日照時間は、平年並が多い見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(中国地方)】</p> <p>7月30日頃から、かなりの高温。(気象庁広島地方気象台 7月22日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は高く、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(中国地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。(中国) (農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高く、降水量は、平年並か少ない見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、稲葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 6月9日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
高 知	<p>(早期稲)</p> <p>6月上旬は比較的天候に恵まれていたため生育は概ね順調であった。しかしながら、4月下旬～5月上旬の低温や5月中旬に日照時間が少なかった事などから、県中央部や東部では分けつ数がやや少ない傾向であり、収量への影響が懸念されている。</p> <p>(生育)</p> <p>(普通期稲)</p> <p>梅雨の影響などで定植作業が遅れたり、一部では生育不良や障害の発生、苗いもちにより植え直しをしたほ場があるため生育にばらつきが見られるが、全般的には生育は概ね順調である。</p> <p>(高知県病害虫防除所 7月6日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、稲葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国) (農林水産省 6月9日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
福 岡	<p>【7月15日現在】(農林業総合試験場における生育概況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢つくし」の草丈は、平年より9%長く、主稈葉数は平年並であった。6月10日植の「夢つくし」の出穂期は8月8日頃と予想される。 ・「元氣つくし」では、草丈は平年より36～42%長く、莖数は平年並～14%多く、主稈葉数は1.2～1.3 葉多かった。 ・「ヒノヒカリ」では、草丈は35～44%長く、莖数は平年並～23%多く、主稈葉数は1.0～1.3 葉多かった。 ・「実りつくし」では、前6年と比べ、草丈は29%長く、莖数は20%多く、主稈葉数は1.2 葉多かった。 <p>(福岡県ほか 7月19日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(九州北部地方)】</p> <p>7月30日頃から、かなりの高温。(気象庁福岡管区気象台 7月22日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元氣つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が増加傾向となり、「元氣つくし」が減少傾向となっている。なお、県では今後新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>(同上)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(九州北部地方)】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。
宮 崎	<p>【作物の生育状況(6月中旬)】</p> <p>(生育)</p> <p>早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月24日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系358」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月24日～8月23日】</p> <p>(同上)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】</p> <p>(同上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、早期栽培において収量水準の高い「なつほのか」が増加傾向であり、「コシヒカリ」との価格差も小さいことから今後も移行が進むことが予想される。

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和3年7月26日 14時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で表している。

引用資料:

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月21日)、
農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道釧路振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月21日)、
農作物生育状況調査の概要 令和3年7月15日現在(北海道留萌振興局 7月21日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月21日)、
稲作生産情報第6号(青森県 7月20日)、
7月20日現在の水稻の生育状況と当面の技術対策の徹底について(岩手県 7月20日)、
令和3年産水稻の生育状況について(7月20日現在)(宮城県 7月21日)、
令和3年産仙南稲作情報(第5号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月21日)、
仙台稲作情報2021(第7号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月26日)、
令和3年産美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日)、
稲作情報(vol.6)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月21日)、
栗原の稲作通信令和3年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月21日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月26日閲覧)、
雪若丸技術情報No.7(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト本部 7月20日)、
米づくり技術情報第9号(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト本部 7月20日)、
西おきたま米づくり情報No.10(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト置賜地域本部実践班西置賜農業技術普及課 7月21日)、
稲作だより第9号(山形おいしさを極める!米づくり日本一プロジェクト西村山農業技術普及課 7月21日)、
稲作だより第10号(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト最上地域本部最上総合支庁農業技術普及課 7月26日)、
主要な農作物の生育情報令和3年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、
農研連報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月13日)、
農研連報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月12日)、
令和3(2021)年度水稻生育診断予測事業連報No.4(栃木県 7月12日)、
水稻の生育と当面の対策第5報(千葉県 7月14日)、
水稻の生育と今後の管理対策(第6号)(新潟県 7月21日)、
コシヒカリ生育情報第6号(魚沼農業普及指導センター 7月20日)、
令和3年産水稻生育速報No.6(新発田農業普及指導センター 7月21日)、
稲作速報No.6(新潟農業普及指導センター 7月20日)、
水稻生育速報(長岡農業普及指導センター 7月20日)、
FAX稲作情報No.8(三条農業普及指導センター 7月20日)、
南魚沼産コシヒカリ生育速報No.5(7/20調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月21日)、
十日町地域稲作生育速報(令和3年7月20日)(十日町農業普及指導センターほか 7月20日)、
コシヒカリ・こしいぶき生育速報No.6(上越農業普及指導センター 7月20日)、
稲作管理情報第8号(柏崎農業普及指導センター 7月20日)、
令和3年度糸魚川売れる米づくりコシヒカリ生育情報No.6(糸魚川農業普及指導センター 7月20日)、
令和3年度稲作生育速報No.6(佐渡農業普及指導センター 7月20日)、
TACS情報第8号(富山県 7月19日)、
令和3年産水稻の生育状況と今後の対策(水稻生育診断技術確立調査-7号)(石川県農林総合研究センター 7月9日)、
稲作情報No.12(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月21日)、
令和3年作物技術普及情報第12号(松本農業農村支援センター 7月9日)、
農業試験場水稻試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 7月16日)、
水稻高標高試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 7月16日)、
伊那米総合試験地水稻奨励品種決定ほ生育状況(上伊那農業農村支援センター 7月2日)、
令和3年度水稻生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月9日)、
令和3年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県 7月5日)、
令和3年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 6月30日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 7月6日)、
福岡県米麦大豆生産改善速報 第2号(福岡県、福岡県米麦品質改善協会 7月19日)、
令和3年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月24日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月22日札幌管区气象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月22日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月22日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月22日新潟地方气象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月22日大阪管区气象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月22日広島地方气象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月22日高松地方气象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月22日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月22日鹿児島地方气象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(7月21日札幌管区气象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(7月21日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(7月21日気象庁)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(7月21日新潟地方气象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(7月21日大阪管区气象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(7月21日広島地方气象台)、
四国地方こう3か月の天候の見通し(7月21日高松地方气象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(7月21日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(7月21日鹿児島地方气象台)、

高温に関する早期天候情報(北海道地方)(7月22日14時30分 札幌管区气象台)、高温に関する早期天候情報(東北地方)(7月22日14時30分 仙台管区气象台)、
高温に関する早期天候情報(北陸地方)(7月22日14時30分 新潟地方气象台)、高温に関する早期天候情報(近畿地方)(7月22日14時30分 大阪管区气象台)、
高温に関する早期天候情報(中国地方)(7月22日14時30分 広島地方气象台)、高温に関する早期天候情報(九州北部地方)(7月22日14時30分 福岡管区气象台)、

令和3年度病害虫発生予報第4号(農林水産省 7月7日)、
令和3年産水稻の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月23日)